

（万戸とた、た、系当排
興予算の総額は50億60
02万4千円（前年度比
12・5%減）だった。
経常費補助の生徒等1
人当たりの単価は、高校
が35万8414円（同1
・1%増）、中学校が31
万3449円（同1・2
%増）、幼稚園が18万3
682円（同1・0%
増）となり、専修学校が
前年度と同額の1万12
62円。

中学校経常費単価は約31.3万円 小学校は約31.2万円を補助

長崎県

長崎県の平成27年度当
初予算は、26年度2月補
正予算（経済対策）と一
体的に編成し、約692
8億円（前年度比0・1
%減）となった。27年度
は「長崎県総合計画」の
総仕上げとなる最終年度
が34万6578円（同1
・1%増）となり、専修学校が
前年度と同額の1万12
62円。

奨学給付金約4100万円補助

山梨県

山梨県の平成27年度6
月補正の予算が総額で4
624億1185万7千
円と決まった。私学振興
予算の総額は47億911
1万5千円となった。
経常費補助の生徒等1
人当たりの単価は、高校
が33万9560円（前年
度と同額となった。中学

21世紀型教育ワークショップ開催

デジタルツールアクティブ・ラーニング を活用した

振り返り・確認作業は重要な原点

LbE Japan

グローバル人材育成企
業のLbE Japan
（北浩一郎代表取締役
役、本社福岡市）主催
の「21世紀型教育ワー
クショップ」が7月27、28
の両日、鶴友学園女子中
学・高等学校（東京都世
田谷区）で開催された。
約30人の教務責任者また
は教員ら30人が研修を積
んだ。研修は「学習者の
「4Cs」を実現する指

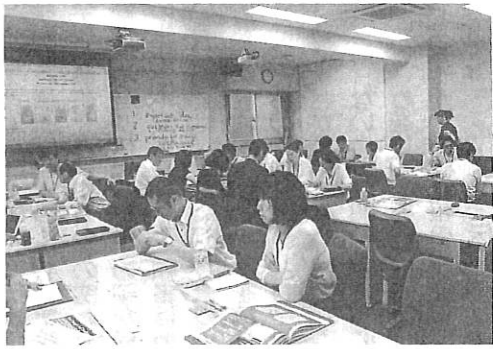
導の理解と実践」を目的
に、「デジタルツールを
活用したアクティブ・ラ
ーニングの実践と評価」
を学んだ。
「4Cs」とは、「Cr
eativity and Innova
tion（創造性とイノベ
ーション）」「Critical Th
inking and Proble
m Solving（批判的思
考と問題解決）」「Com
munication and Co

号館で開催された。同カ
ラムを通して、地域貢
献を経験させ、実践力を
高めることに取り組ん
でおり、今回のカレッ
ジもそうしたことが狙
い。

神奈川私全私学（中） 中高協会が

講演会は入学試験等

神奈川県私立中学高等
学校協会（工藤誠一理事
長）は7月20日（祝・海
の日）に横浜市・パシフ
ィック横浜で、「21世紀を
リードする伝統と創意
／／全人教育は私学から」
をテーマに、2015神
奈川全私学（中・高）展
を開催した。同県内14
1校が83のブースで自校
の魅力アピールした。
開会式のあいさつで工
藤理事長は「建学の精神
に基づく教育方針を、自
信を持って存分に伝えて
ほしい」とあいさつ。
全私学展では、ブース
での学校紹介のほか、ス
テージイベント（部活発
展、制服展、校章パネル
展、部活動写真展、新た
に保護者のための講演会
等）が行われた。



講義とワークショップが行われた研修

か「すべての教科で4
技能が行われているかど
うか」「常にグローバル
な視点が必要であるこ
と」——が重要であると
した。
またアクティブ・ラー
ニングにおける評価につ
いて、コスタ氏は「Ass
essment」（評価）とい
って、学びのプロセスの
段階で評価していること
が必要で、成果の事例を見
せること、ルーブリック
評価を活用すること、最
後にチェックリストで自
分の立ち位置を知ること
などが重要だとした。
従来の授業とアクテ
ィブ・ラーニングと比
較をした上で、アクテ
ィブ・ラーニングの手
法では、振

研究の分野で多くの実践
を重ね、その実践が高く
評価されている。
同学園の清水哲雄常務
理事はあいさつの中で、
「学力要素の中で知識の
活用や学ぼうとする意欲
について、アクティブ・
ラーニングでやり直す必
要がある。お互い、教え
合って情報を共有化して
ほしい」と述べた。
コスタ氏は「今の時代
に必要なのは、先生方が
変わらなければならな
い」とした上で、4Cの
うち、「コミュニケーション」
についてコスタ氏
は「全てを英語で教える
のに、どれだけ分かりや
すく教えることができる

講師はカリフォルニア
州立大学フラトン校教授
のヴィクトリア・コスタ
氏。州を挙げて21世紀型
の学習者育成を実践し、
授業がアクティブ・ラー
ニングの考え方で進めら
れているカリフォルニア
州で教員養成および教員

「振り返り・確認作業は常に
重要な原点であること、
子供たちに考える時間を
与えることが必要だと述
べた。
また、「アクションプ
ランの手法」（行動計画）
について、生徒にテーマ
を設定すること、学校の
リーダーとしてアクティ
ブ・ラーニングを導入し
なければならないこと、
どのようなアクティブ・
ラーニングを導入するの
か、導入するとして障害
は何か、最終的にどのよ
うな成果を期待するの
か、計画を実践するのに
必要な物的・人的資源を
列記すること——が求め
られるとした。

講演会は「神奈川私学